

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

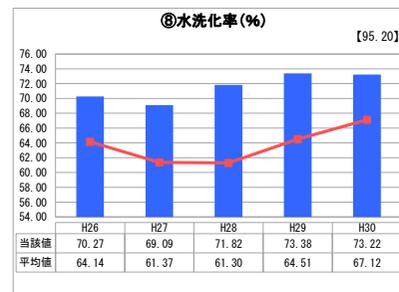
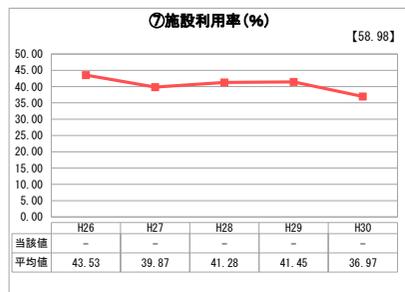
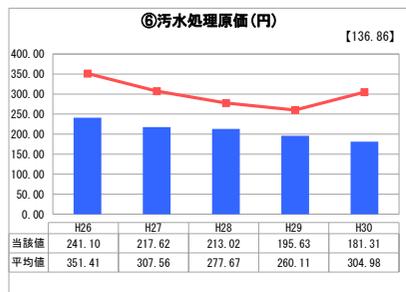
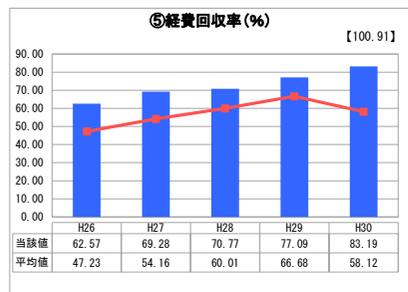
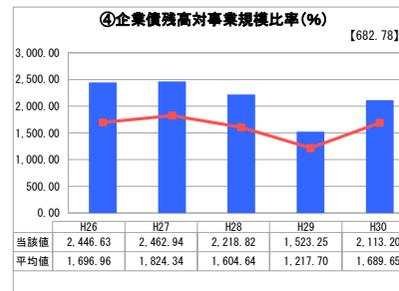
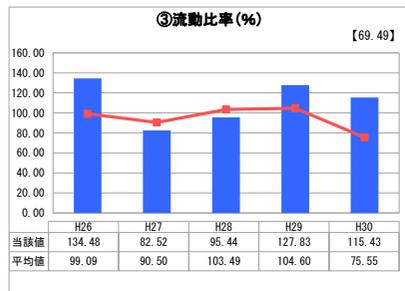
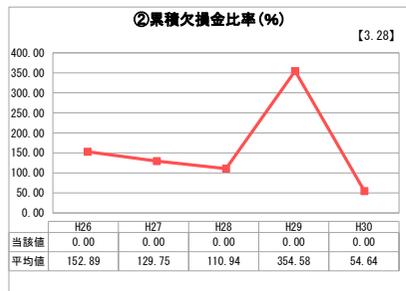
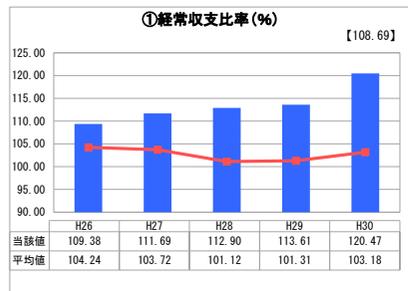
岡山県 里庄町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金 (円)
-	51.85	61.35	98.57	3,240

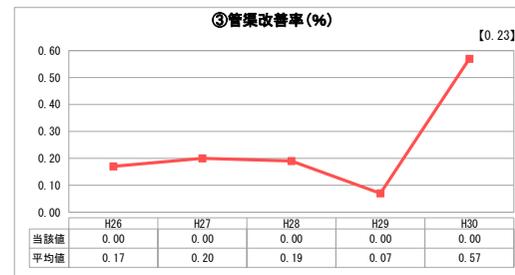
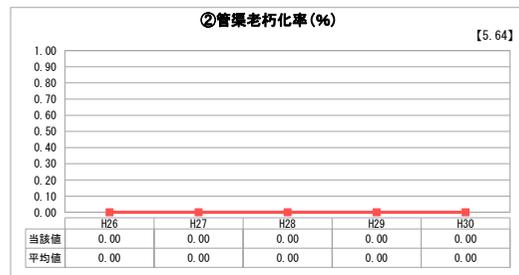
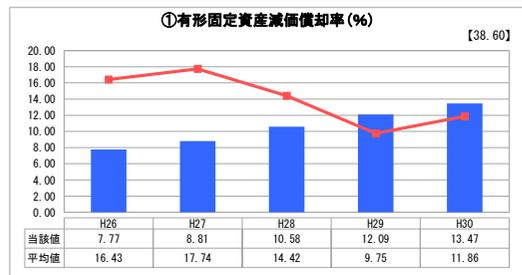
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
11,193	12.23	915.21
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
6,877	3.05	2,254.75

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金が無く、経常収支比率が100%を超えているので経営状況は良好といえる。しかし、経費回収率をみると、汚水処理に係る費用を下水道使用料で83%しか賄えておらず、残りは主に一般会計からの繰入金に頼っているのが現状である。

他方、経費回収率は徐々に増えており、逆に汚水処理原価は下がってきているので、有収水量や下水道使用料が増加していることがうかがえる。下水道自体がまだ整備途中であるため、今後も整備を進めていけば使用料収入のさらなる増加も見込め、一般会計からの繰入金を削減することができる。

### 2. 老朽化の状況について

平成16年から供用開始しており、管渠等はまだまだ新しく老朽化していない。

## 全体総括

里庄町では、供用開始が平成16年と遅く、下水道整備予定の区域の約60%の整備状況にとどまり、一般会計からの繰入金も多いが、管渠の整備が進んでいけば有収水量も増加し、使用料収入も増える見込みである。

これからも更なる経費節減に努め、水洗化率向上につながるよう引き続き住民に向け、下水道への接続をお願いしていきたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。